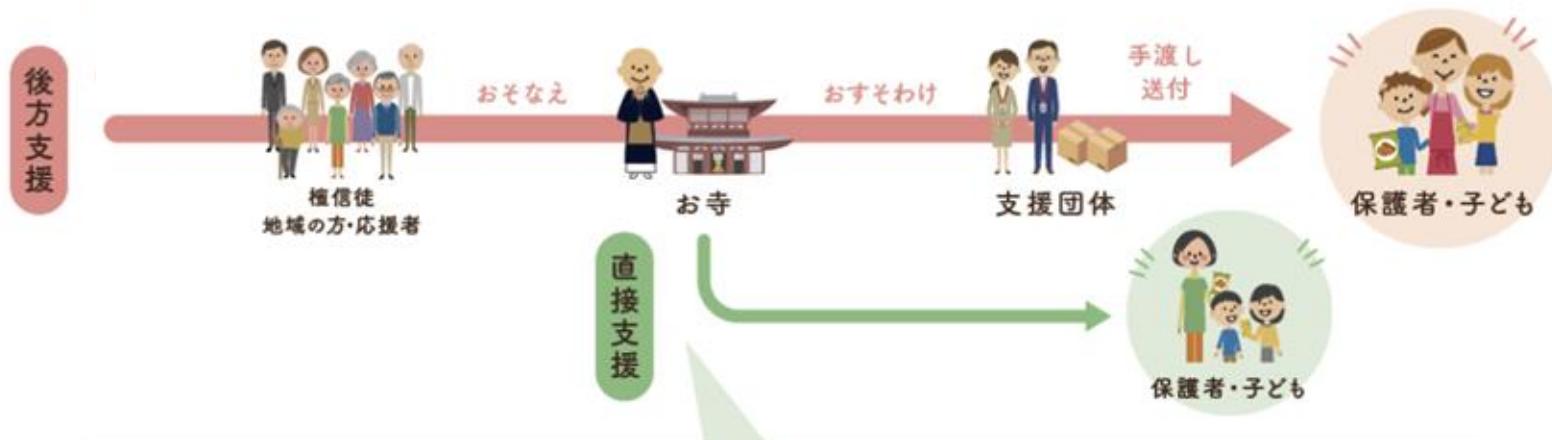


2025年12月
全国支援家庭向け調査 報告書
(概要版)



2026.2.10

おてらおやつクラブから「直接支援」を受ける全国の家庭について、家庭を取り巻く環境や、当団体とのつながりに対する意識や実態を把握し、今後の活動の示唆とする。



直接支援

活動の周知に伴って支援要請の数が増えたことにより、上記の後方支援だけでは支えきれないケースも増加。そこで、匿名配達の仕組みを新たに作り、全国のお寺からひとり親家庭へと直接「おすそわけ」を届ける支援形態を構築した。

調査目的	直接支援を受ける方の家庭環境や、おてらおやつクラブとのつながりに対する評価を定量的に把握し、今後の活動の示唆とする。
調査手法	インターネット調査
調査対象 および有効回答数	期間中、おすそわけを希望し、事務局へ受取り報告をした全国計2,909世帯を調査対象とする。 おすそわけ希望者とは、おもに生活に困窮したひとり親家庭で、自治体や支援団体の紹介を受けて当団体のおすそわけを希望した方々である。 有効回答数は2,732（有効回答率 93.9%）。 うち、初回受取は384、リピート受取は2,348。
調査時期	2025年11月1日（土）～12月31日（水）

1

今年は予算の都合上、困窮世帯へ積極的なアウトリーチを行うことができなかったため、当該支援期間においては「おそらく受け取り2回目以上の家庭」が8割強を占めた。 (p.4)

2

今年は初めておそらく受け取る初回層にはスピード重視で対応、成果指標すべてでスコア向上が見られた。 (p.5,6)

— スピード重視にあたり、支援要請のあった家庭に対して、遠方からも「おそらく」配達できるよう配達システムのエリア制限を緩和。それにより、配達距離が伸長し、配達単価は上昇した。

3

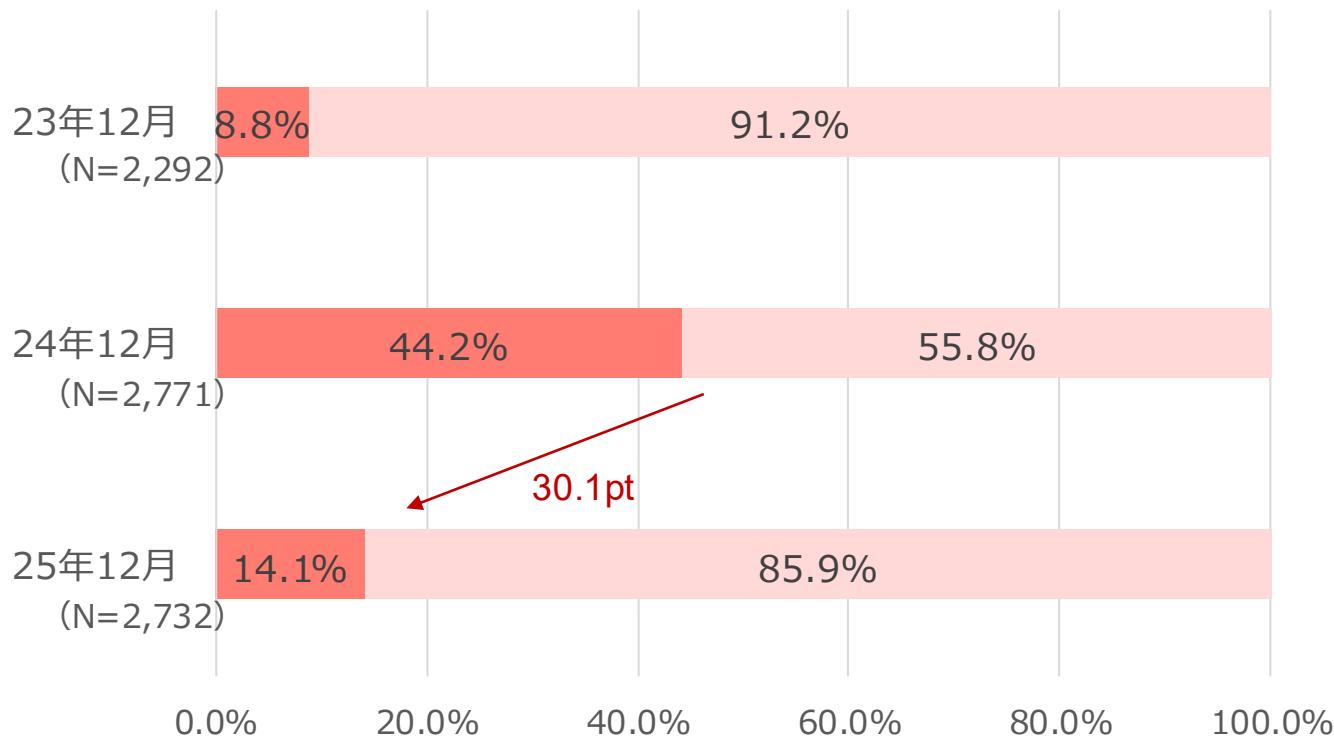
自由回答からは、賃上げによって支援対象から外れてしまったことへの困惑や、身近に支援を受けられる団体のないこと、長期化する物価高による暮らしの悪化が垣間見られ、支援条件を課さないおでらおやつクラブのような支援が求められる社会環境にあることがうかがえる。 (p.7)

「おすそわけの受取り2回目以上の家庭」が、8割強を占める。

- 歳末の大規模支援施策は、主にリピート層（=2回目以上の家庭）を対象と位置づけている。
- 昨年は「初回受取家庭の増加」を目標にアウトーチ強化を行った。一方、今年は予算上、施策の規模を拡大することは困難と判断。積極的なアウトーチを行わなかったため、リピート層が大半を占める結果となった。

Q. おてらおやつクラブから受け取ったおすそわけの回数

■ 初めて ■ 2回目以降



調査結果2：おすそわけ受取後の心理変化（各時系列）

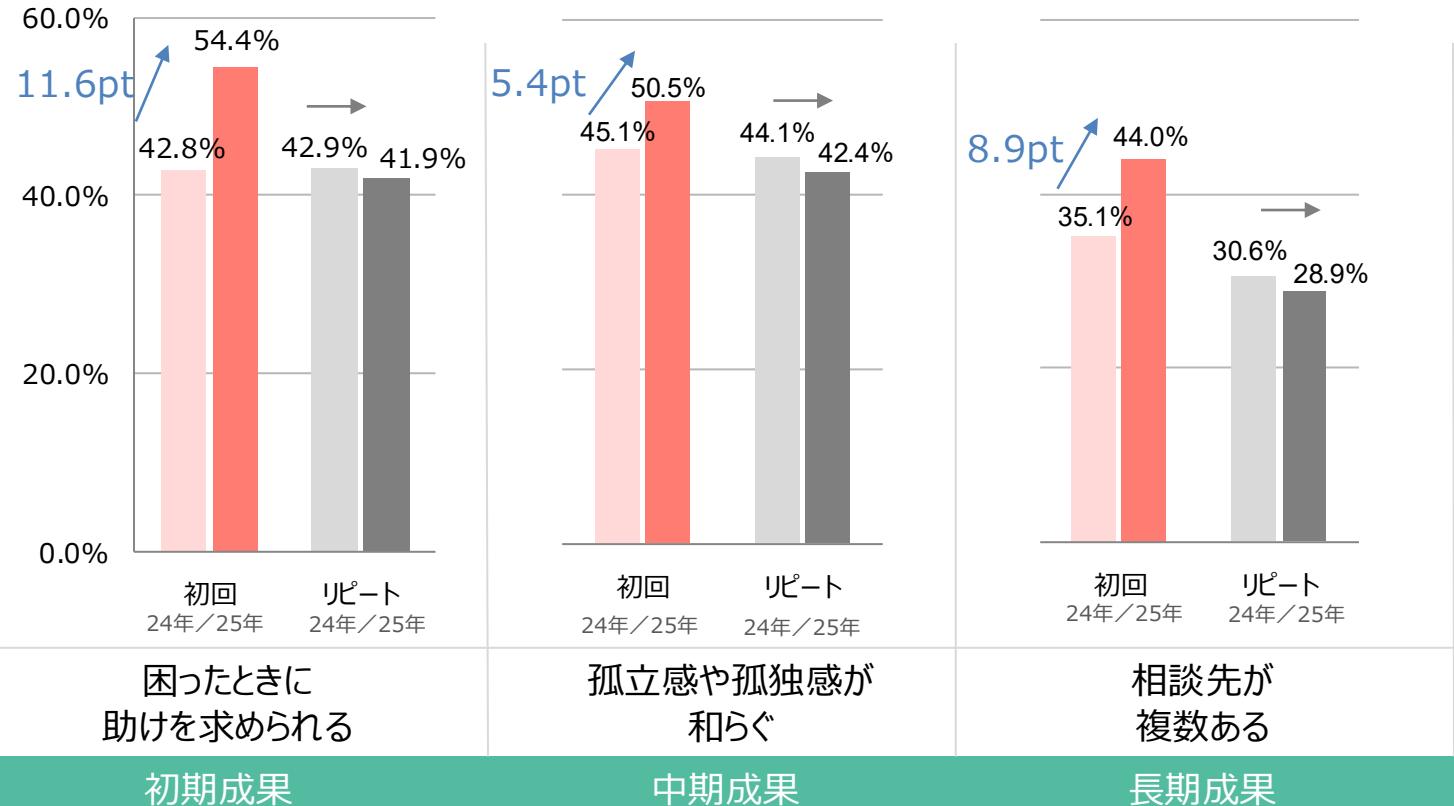


初回層はすべての成果指標でスコアが向上。
一方、リピート層は横ばいとなった。

- 昨年は、一律で配送コスト低減を優先したため、おすそわけが届くまでに場合によっては100日待ちの状況が発生。それにより、アウトカム評価のスコアは著しく低下した。
- 上記反省を踏まえ、今年は初めておすそわけを受け取る初回層への配送はスピード重視で対応、スコア向上に寄与した。

Q. おてらおやつクラブとのつながりによる影響（スコアは5段階のうちTOP1）

24年初回：N=736 / リピート：N=2,035
25年初回：N=384 / リピート：N=2,348



初回層への配送の所要日数は、平均で約30日短縮。
一方、配送コストの上昇は悩ましい点。

- 初回層への配送をスピード重視とするため、**支援要請**のあった家庭に対して、通常よりも遠方のお寺様からも「**おすぐわけ**」配送できるよう配送システムのエリア制限を緩和。それにより配送距離が伸長し、**配送単価**は上昇した。
- 配送単価を下げれば、より多くの家庭に物資を送ることができるが、発送までの所要日数は長くなるため、結果、支援の満足度は低下する。コストと満足度のトレードオフについては、引き続きバランスを模索する。

	2024年	2025年
初回層の支援申請～発送までの所要日数	平均41日 (最大：101日)	約30日短縮 平均12日 (最大：51日)
初回層の1箱あたり配送単価	860円	975円 +135円

* 集計期間は2024年、2025年ともに11月1日～12月31日。

自由回答からは、賃上げによって支援対象から外れてしまったことへの困惑、
身近に支援を受けられる団体のこと、
長期化する物価高による暮らしの悪化が散見される。

▼「非課税世帯」扱いから抜けたことによる暮らしの悪化

シングルマザーですが、今年度、初めて非課税から外れ、扶養手当も全部支給ではなくなってしまいました。
住民税も引かれて子供の医療費もかかる。この状況では食糧支援などには申し込みが出来ません。

シングルマザーだけど「全部支給ではない=裕福」というわけではないと思うし、我が家は絶望していたので、
おてらおやつクラブさんには感謝してもしきれません。シングルだけど非課税ではない中途半端な世帯にも、
支援が行き届きますように。

（北海道／40代のお母さん／お子さん2人）

▼生活支援を期待できない地方部の暮らし

お恥ずかしい話、どうせ田舎だし登録してもすぐに何か支援があるはずもないだろうと思っていました。が、すぐに
おすそわけをお送りしましたとLINEが届き、私も子供達もとても楽しみに届くのを待っていました。

届くまでのドキドキワクワクから、実際おやつやみかんを頂き子供達と甘いものを食べる時間も有難かったです。

（青森県／30代のお母さん／お子さん3人）

▼物価高による暮らしの悪化

まさか、お米をいただけるとは考えもしていなかったため、子どもたちとても喜んでいます。今年に入ってからの
物価高騰で、果物やお肉お魚などが全く購入できなくなってしまいました。成長期の子どもたちにはとても申し
訳ないです。1人暮らしの要介護5の父もあり、疲れ果てていて、誰かに一から相談する体力も気力もわからず、
八方ふさがりでした。

（東京都／40代のお母さん／お子さん4人）

名称	認定NPO法人おてらおやつクラブ
所在地	〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾765-1
活動開始	2014年1月1日
認定NPO法人認証	2020年11月27日
Webサイト	http://otera-oyatsu.club
代表者	代表理事 松島靖朗
役員	理事 岡本拓也 理事 桂 浄薰 理事 高山信雄 理事 野田芳樹 理事 福井良應 理事 松野尾浩慈 監事 溝渉雅男
相談役	森本公穂 井出留美